

体育授業における左右指示に関する一考察

—左右盲に着目して—

植田 結月（東京学芸大学）

1. 目的

本研究の目的は、左右盲に有効な工夫及び左右盲の有無にかかわらず有効な工夫について調査し、体育授業における適切な左右指示の仕方を明らかにし、ユニバーサルな体育授業を考えることである。

2. 研究方法

1) 対象者及び調査方法

東京学芸大学の学生 30 名に対して、体育授業における左右指示への混乱に関する質問紙調査を行った。また、左右盲の学生 2 名と左右盲ではない学生 2 名に対して、「鏡越しの指導」と「絵で方向指示」の 2 つの工夫の効果を試すダンス指導の実験を行い、ビデオカメラによる動画撮影と、アンケート調査を行った。

2) 分析方法

動画の内容を「ミスの数」「覚える速さ」「説明時間の長さ」に注目して数値化し、グラフに示した。アンケート結果は、左右盲の有無により平均値を比較した。

3. 結果と考察

左右盲有り群は、工夫を行った場合の指導で、3 つの分析項目すべてにおいて工夫を行っていない場合よりも良い結果が得られたことや、アンケートで工夫を行った場合のダンスに良い評価を行っていることから、「鏡越しの指導」と「絵で方向指示」のどちらも有効であることが分かった。左右盲無し群では、「鏡越しの指導」の時には良い結果が得られたが、「絵の方向指示」は工夫を行わなかった場合の方が良い結果が得られたことから、「鏡越しの指導」は有効であるが、「絵の方向指示」はあまり効果的ではなく、左右表現を用いた方が良かった。

また、鏡の工夫が左右盲の有無にかかわらず有効であったことや、左右指示への混乱が生じやすい場

面として予備調査で挙げられていた結果から、鏡の工夫が有効な理由として、左右が分かりにくい対面の状態を解消するためであると考えられる。

4. 結論

本研究では、鏡越しの指導は左右盲の有無にかかわらず、体育授業における左右指示への混乱を防ぐのに効果的であることが明らかとなった。体育授業において、鏡越しの指導及び向かい合せでの指導を防ぐことは、積極的に取り入れていくべきであるこ

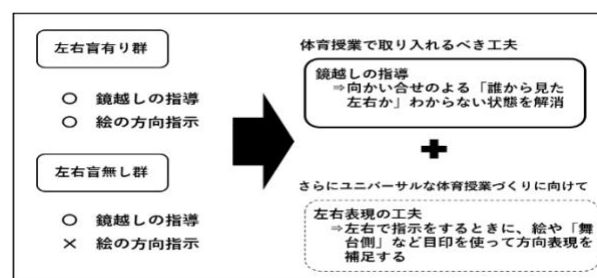


図1 体育授業で取り入れるべき工夫についての考察

とが示唆された。また、左右を他の方向表現で表す工夫は、左右盲ではない人にとってはあまり好ましくなく、左右表現を使いつつ、左右盲の人への配慮をしていくことが、ユニバーサルな体育授業づくりにつながると考えられる（図1）。

5. 主な参考文献

- 1) 白井 常・鹿取 廣人・河内 十郎(1978) 左と右の心理学, 紀伊国屋書店